

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800548		
法人名	特定非営利活動法人 うらら		
事業所名	グループホームうららびより金山 (櫻館)		
所在地	岐阜県下呂市金山町金山988-1		
自己評価作成日	平成31年2月1日	評価結果市町村受理日	令和元年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2172800548-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成31年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

うららびより金山は、地域交流を深める場として、今年度も小学生児童様による福祉学習、中学生生徒様による職場体験学習を行いました。福祉学習を終えられた小学生児童様より、お礼のお手紙やお葉書を頂き、利用者様も大変喜ばれ、お返事のお葉書を出されるなど交流につとめています。先般、下呂市地域包括より、認知症の方ご家族様より対応策を伺いたいとのことで「認知症の方への対応ちょっとしたコツを学ぼう」と題して講演会の依頼があり開催したところ、「今後もお願いしたい。勉強になった。」と、講評を頂きました。金山地域では、唯一のグループホームうららびより金山であり、今後も地域の方々と協力しあえるうららびより金山でありたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は緑の山々に囲まれ、周辺には、病院・温泉施設・スポーツ施設・道の駅等、地域の人々が集う場所が多くあり、常時、住民の声が聴こえ、出会える環境にある。玄関横には、竹や花が植えられ、和の雰囲気演出している。リビングダイニングの天井が吹き抜けとなっており、柔らかい自然光が入り、共用スペースは明るい空間となっている。職員は、利用者が、日々、明るく穏やかに暮らしていけるよう支援し、家族や知人の訪問の際には、ゆっくりと過ごせるよう配慮している。管理者は、子育て中の職員も働きやすいシフトの調節を行い、子連れ出勤にも対応しながら、利用者・家族が安心できるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(櫻館)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月1回、職員会時に全員で確認し合い実践につなげている。	理念は、誰もが見やすい場所に掲示し、職員は常に理念を意識しながら、利用者の生活支援を行い、実践につなげている。また、転倒予防のスローガンも掲示し、利用者への安全なケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	野菜を頂いたりしている近所の方が事故に合われた時に当施設に救助を依頼された事もあり付き合いが密になっている。	近隣住民とは、気軽に挨拶が出来る関係である。誰もが気軽に立ち寄れる場所として、ホームの存在が地域に根付き、地域の高齢者を見守る役割も担っている。小学生の福祉学習、中学生の職場体験学習を受け入れ、交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症を学ぼう」という会を開いて地域の方に情報発信を行った。地域での認知症でお困りのご家族様に参加頂き、第1回の講演会を開催することが出来た。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加された方の意見を聞く機会はあるが、利用者家族の参加が多くなる様になると良いと思われる。	運営推進会議への参加人数の件が課題であったが、内容を工夫し、より多くの参加が得られる会議開催に努めている。災害対策についての研修内容を報告し、家族の意見や要望等を話し合い、職員間で共用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市担当の職員に出席を頂いて協議をしている。地域の区長さんの出席もある。	行政とは必要に応じて連絡を取り合い、情報はメールや電話でやり取りし、窓口にも出向いている。市の災害対策集団指導に参加したり、事業所の介護職員不足については、行政が職員募集のチラシの作成するなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会のテーマにも取り上げ理解を深める様になっている。	身体拘束に関する学習会を定期的に行っている。職員間で具体的な例を挙げ、拘束になるかどうか話し合い知識を深めている。また、拘束をしないリスクも検討しながら、見守りの強化と共に、ケア方法を工夫し、寄り添う介護に取り組んでいる。	身体拘束についての学習会で、職員がどのように学び、理解しているかを運営推進会議の中で、身体拘束等の適正化委員会として報告し、事業所での取り組みを外部に発信される事を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で具体的な事例について話し合いの機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	うららびより全事業所の代表者及び管理者が集い成年後見制度を学ぶ機会があった。今後は職員会を通して勉強会を行う予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約内容について読み合わせ、生活面での不安、お困りごとをお聞きできるように十分に時間を設けている。物品購入等、細かなことについても十分に説明を行っている。場合により文書で同意を得て購入している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への出席者は少ないが貴重な意見も頂く事があるので職員間で共有している。	日々の生活支援の中で、利用者から思いを聞いたり、家族の訪問時に意見や要望を聞いている。毎月、行事の様子や利用者の笑顔満載の「うららびより」を発行し、「がやがや会議」も開催している。良い評価だけでなく、課題点も大切に捉え、検討しながら、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会や面談時を通して職員の意見を聞き反映させる様に努めている。	本部からの情報を把握し、職員会議を定例化しているが、参加できない職員は、事前に議題についての意見や、日常の気づきを管理者に提出し、全職員が会議に関わるよう取り組んでいる。職員間も、良好な関係ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の力量を把握するように努めている。必要に応じて面談の機会を持っている。本部関連の研修に参加している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量を把握する事に務めている。必要に応じて面談の機会を持っている。本部関連の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	うららびよりの全事業所の代表者及び管理者が集い毎週月曜日は、営業会議を行いサービスの質の向上をめざしている。その一環で子供食堂の開催や空き家対策にも取り組んでいる。また、毎月1回のケアマネ会議も開催し勉強会をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅やデイサービスへ出向き、事前面談をおこなっている。本人が安心できるように可能な限り、居宅のケアマネージャーさんに同席してもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込みにみえた段階で、ご家族の困っていること、施設に期待することを伺っている。サービスを導入する段階では再確認させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集シートを用いて事前面談を行っている。入所前に職員全員が情報を把握するように努め、必要とする支援について話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者からも声が掛けやすい雰囲気を作る様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「家族レター」等を通して個々の職員の思いを伝え関係づくりに役立てている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人等の訪問時には、居室、リビング等で歓談して頂いている。	来訪のボランティアと親しい関係を築いたり、道の駅で近隣住民と出会うことも多い。家族や孫と携帯電話で連絡を取り合う利用者もあり、それぞれが、馴染みの場所や人との関係を可能限り継続できるよう、支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の話題等を取り上げ、利用者同士が参加出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られる際には面談時に立会い、情報提供書をお渡ししている。退所後は面会に行き様子を伺って経過フォローできるように相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的、又はカンファレンスの機会を通じて希望、意向を職員同士、共有する様に努めている。	職員は、利用者の思いや意向を、日常生活の関わりの中で把握している。意思表示が難しい場合は、表情や動作から読み取り、気持ちを受け止め、申し送り時に職員間で共有しながら、寄り添うケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の事前情報の把握に努め、利用者の暮らしを理解する様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、生活記録、気づきノートを利用し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議やカンファレンスで職員が情報交換、課題について意見を出し合っている。	介護計画は、利用者の思いが記載されている「気づきノート」や情報を基にして立案している。定期的にモニタリングをしながら、家族や利用者意見や希望を聞き、医師を含めた関係者の意見も参考にし、計画に反映させている。利用者の状況変化には迅速に対応し、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、生活記録等に記入し、日常の介護に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設側の一方的なサービスにならぬ様に、ご要望をお聞きし柔軟な支援に努めている。		

岐阜県 グループホームうららびより金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出、行事、音楽療法、福祉学習で地域資源活用や触れ合い、楽しんで頂く様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や職員で受診を支援している。必要に応じ、往診に来てもらっている。	かかりつけ医は、利用者・家族が選択している。薬は担当薬剤師に配達を依頼し、副作用や服薬時の留意点を聞くなど、相談し易い関係にある。希望者には往診や訪問歯科の受診など、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りや報告を行い、利用者のちょっとした体調変化も看護職に報告し協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は口頭や文書にて利用者様の状態や経過を報告している。また、管理者、ケアマネジャー、看護師が病院へ伺い病院関係者と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状態の変化やケアの変更があれば、その都度ご家族へ連絡をしている。また、終末期には主治医、ご家族、職員間で話し合いをして方針を共有するように努めている。4月に看取りの勉強会を行った。	契約時に、利用者の状態変化や緊急時の対応についての説明し、状態変化時には、その都度、話し合っている。終末期において、ホームでの暮らしを希望する場合は、医師を交えて家族と話し合い、できる限りの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時は手順の対応と連絡網を実施し職員の連携をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、定期的に避難訓練を実施している。地域の防災訓練に参加している。	昨年、台風や豪雨災害を体験し、職員が帰宅・出勤が困難となった事から、緊急時の対応として、職員用の寝袋の準備している。市の災害時の研修では「パッククッキング」を学び、地域の防災総合訓練にも参加している。運営推進会議でも防災について考える機会を設け、自治会長や消防団との連携体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや声掛けの仕方を職員会議で話し合ったり月の目標とし利用者様を尊重した支援を心掛けている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、その人のあった言葉かけや対応をしている。行事やレクリエーション参加は、利用者の思いに寄り添い、無理強いすることなく、本人の意思を尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との会話や気持ちの汲み取りをして思いに添う様支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護の世界には介護者自身が各々流派を持っている様で時にそれが優先させる事がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で着替えが困難な方には職員が支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	やって頂ける利用者には食後の片付けをやって頂いている。	食事は、利用者の嚥下能力に配慮した食事形態で提供し、職員は、極力、手を出し過ぎない介助に努め、利用者が自分のペースで食べられるよう支援している。職員と一緒に、干し柿、栗きんとん、らっきょう漬け、梅ジュース作り等を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、おやつの中には生活記録に記入し状態に応じ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後は口腔ケアを実施している。歯科受診、訪問歯科の利用もしている。		

岐阜県 グループホームうららびより金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表や職員声掛けし排泄パターンの把握をし自立支援を行っている。	声かけや誘導で、トイレでの排泄を支援している。紙パンツを布下着に変更したり、尿量の応じてパッドの種類を見直すなど、負担費用の軽減につなげている。夜間は、睡眠を重視する場合と、途中で排泄用品の交換をするかは、利用者の状態に合わせて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況表を利用し各自の排泄リズムを把握し予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴は困難であるが計画的に入っている。時間の制約は現状では施設の状態による事となる。	入浴は週3回を基本とし、入浴日や順番は利用者の体調を考慮しながら、臨機応変に対応している。また、菖蒲湯やゆず湯で、利用者が季節や香りを楽しめるよう工夫したり、入浴支援時には、利用者とのコミュニケーションを図るよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本が希望されたり体調をみて居室に休んで頂く様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が管理している薬指示により現場の職員が支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な限り、1人1人に合った支援を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月毎の行事計画をたて外出を楽しんで頂いている。日常的には散歩をしている。	利用者は年々、身体機能が低下し、毎日の散歩は困難になっており、ウッドデッキで外気に触れる機会を設けている。寒い日の外出は避け、室内で「喫茶うらら」を開催して、利用者の気分転換を図ったり、岩屋ダムの紅葉狩りや和良村の戸隠神社・道の駅にも出かけている。	

岐阜県 グループホームうららびより金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の預り金は事務所で管理している、本人の希望により必要な物を買って頂ける様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を利用して自由にご家族様等とお話頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花やその時に応じた作品を作って頂き、展示して季節感を取り入れている。	玄関には、折り紙で作ったリースを飾り、リビングには、利用者の手作り作品や習字、雛人形などを飾り、季節を感じられるよう工夫している。利用者は、リビングの大きな窓から、移りゆく景色を眺めながら、ソファでのんびりと過ごしたり、皆と一緒にテレビドラマを見ることも楽しみのひとつとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の思いを配慮しながら食事の席やレクの席を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置(ベットから降りていかれる時もスムーズに行かれるよう配置に気をつけている)又、居室はいつも清掃を行い気持ちよく過ごして頂いている。	居室の掃き出し窓から、明るい日差しが入り、開放感がある。家具は使い勝手よく配置されており、窓の内側の手すりは転倒予防だけでなく、布団干しの役割も兼ねている。今までの習慣を大切にし、施設希望の利用者の意向にも対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	人感チャイム、センサーマット、鈴を使用し転倒防止や安全対策をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800548		
法人名	特定非営利活動法人 うらら		
事業所名	グループホームうららびより金山 (向日葵館)		
所在地	岐阜県下呂市金山町金山988-1		
自己評価作成日	平成31年2月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成31年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(向日葵館)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会時に理念唱和、確認、共有し日々の関わりの中で実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周辺の散歩や外出(観音様、朝取市場、湯つたり館、飛山)で地域の方と出会いがある。中学生の職場体験、小学校の福祉学習での触れ合い、防災訓練等の行事に参加し交流を深めた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症研修会の実施。地域での認知症でお困りのご家族様に参加頂き、第1回の講演会を開催することが出来た。(地域の防災訓練に参加し入所者の方への支援をお願いした。)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催している。出席していただける様、参加をお願いしているが参加者数は増えていない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	医療、介護の多職種連携による会議、懇談会で顔のみえる関係づくりや金山地域連携会議の参加で協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間、玄関は防犯上施錠している。個々の居室については利用者様のご自身で施錠されている方もみえる、職員が開錠し安全を確認している。職員会で勉強会の実施。ご家族から要望があっても身体拘束の弊害を説明し、事業所の方針を示している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会で勉強会、意見交換を行い、防止に努めている。不適切なケアについて言葉遣い等、気になる時は職員間で話し合っている。		

岐阜県 グループホームうららびより金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	うららびより全事業所の代表者及び管理者が集い成年後見制度を学ぶ機会があった。今後は職員会を通して勉強会を行う予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約内容について読み合わせ、生活面での不安、お困りごとをお聞きできるように十分に時間を設けている。物品購入等、細かなことについても十分に説明を行っている。場合により文書で同意を得て購入している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への出席者は少ないが貴重な意見も頂く事があるので職員間で共有している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見交換を設けている。各担当係りの月1回報告の際、課題や提案をあげてもらい反映できるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員と定期的に面談を行っている。前期、後期と自己評価表に各々、目標等を記入し、面談時に課題や思いを聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量を把握するように努めている。必要に応じて面談の機会を持っている。本部関連の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	うららびよりの全事業所の代表者及び管理者が集い毎週月曜日は、営業会議を行いサービスの質の向上をめざしている。その一環で子供食堂の開催や空き家対策にも取り組んでいる。また、毎月1回のケアマネ会議も開催し勉強会をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅やデイサービスへ出向き、事前面談をおこなっている。本人が安心できるように可能な限り、居宅のケアマネージャーさんに同席してもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込みにみえた段階で、ご家族の困っていること、施設に期待することを伺っている。サービスを導入する段階では再確認させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集シートを用いて事前面談を行っている。入所前に職員全員が情報を把握するように努め、必要とする支援について話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の以前の暮らしや生活習慣に配慮し家庭的な雰囲気づくりに努めている。要望をお聞きし、利用者様同士、楽しく生活できるように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話、面会時にご様子をお伝えしながらご家族の要望をお聞きしている。夏祭り、がやがや会議を開催して一緒に過ごす機会をつくっている。外泊、地域の祭りへの参加等はご家族に協力頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援等でお食事会、イベントへ参加することで、地域の方、知人からお声を掛けて頂いている。面会でも近所の方が野菜を持ってきてくださったり、顔をのぞかせてくれることが増えた。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士、色々な話題でコミュニケーションを図れる様に雰囲気を察し声掛け見守り支援を行っている。又、孤独、不穏時には職員が間に入り、共に暮らし、良好な関係づくりをサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られる際には面談時に立会い、情報提供書をお渡ししている。退所後は面会に行き様子を伺って経過フォローできるように相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で思い、希望を聞いた際は気付きノートで情報共有している。又、カンファレンスで思いや意向を職員間で検討し把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを活用し、情報共有している。入院看護要約でこれまでの経緯や把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気づき、介護、生活、排泄等の記録や申し送り、及び職員間の情報共有で利用者様の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回、カンファレンスで介護職、看護職連携し、利用者様の課題、要望、想いを話し合っている。必要に応じて申し送り等で伝えるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り時に、日中、夜間の様子を報告し情報共有している。モニタリングでも実践状況を把握し、介護計画に反映できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設側の一方的なサービスにならぬ様に、ご要望をお聞きし柔軟な支援に努めている。		

岐阜県 グループホームうららびより金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生の職業体験、小学生の福祉学習での触れ合い、月1回音楽療法、外出支援で食事会や喫茶利用など楽しみを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様等の希望でかかりつけ医院への継続した受診を勧めている。病状によりご家族様に報告、相談の上、専門医の受診をしていただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間を通して看護職へ利用者様の状態、気づいたことがあれば報連相を行い、適切に対応できるように努め、協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は口頭や文書にて利用者様の状態や経過を報告している。また、管理者、ケアマネジャー、看護師が病院へ伺い病院関係者と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状態の変化やケアの変更があれば、その都度ご家族へ連絡をしている。また、終末期には主治医、ご家族、職員間で話し合いをして方針を共有するように努めている。4月に看取りの勉強会を行った。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会で勉強会を設け実践力を身につけるよう努めている。過去の事例報告から対応を情報共有している。又、緊急時を想定し、職員緊急連絡網で連携を確認し実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回、定期的に避難訓練を行っている。防災担当者の組織編成づくり。地域の防災訓練に参加し、協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様1人ひとりを尊重し、優しい声掛け、想いに寄り添った思いやりのある対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中での声掛け、見守り、表情や会話、雰囲気から利用者の思いを汲み取る様に心がけ、利用者様から話される機会も大事にしている。又、小さな事でも自己決定して頂ける様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のその日の体調、気分、ご希望にあわせて、その人らしく過ごして頂けるように要望やペースを大切に支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のペースでゆっくり身支度して頂き、その人の好み、生活習慣の中で決定出来る様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理全般は職員が主に行っている。食材によって一緒に下処理を行ったり、郷土食(ほうば寿司)やぼたもち作りなどしている。季節ごとの行事で家庭でのごちそう、旬な食材について歓談し合い楽しみを持っていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通して、必要な食事量、水分量が利用者様の状態を把握し、確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には、1人1人の口腔状態に合わせた口腔ケアを行っている。ご自身で出来ない方には職員が介助しケアを行っている。定期的に訪問歯科を利用されている方もみえる。		

岐阜県 グループホームうららびより金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況表を活用し、パターンの把握、下肢筋力アップの運動を行い、立位保持や排泄の自立に向け支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療機関受診時には、医師に相談し予防に取り組んでいる。腸内環境を整えるメニューの工夫、ストレスの影響、運動等を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	食後の入浴は体の負担が大きい為、夕食前までの時間で冬場など気温の高い時間帯に入浴して頂けている。お体の状態によって福祉用具を活用し安全に入らせていただいている。ゆず湯なども楽しんでいただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、ご本人の希望で休息して頂いている。夜間、1人の時間をゆったりと過ごしていただいている。眠れない方は職員が傾聴したり安心して休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と連携や薬情報ファイルで情報共有し理解と把握している。症状変化を看護師に報告、医師より服薬調整等の指示を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節毎の作品作り、完成を一緒に喜んで達成感を感じて頂いている。外出、行事等で季節の移ろいも楽しんで頂いている。食器拭き、片付け、洗濯物干し、たたみと家庭でやってみえた役割をやっていただいで張り合いにして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	周辺の散歩等、天候良い日は出掛けている。その都度、ご希望を伺っている。家族の外出のご協力が出掛けられている方もみえます。地域の方々のご協力の外出は出来ないが、ボランティアや協力を得られる様な取り組み支援が出来ると良い。		

岐阜県 グループホームうららびより金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、家族の希望により、ご自身で管理し持ってみえる方もある。日用品の買い物際は必要なもの、ご希望を伺って買わせていただいている。お預かり金はご本人、家族に了承頂いて、事務所で管理させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの要望や必要時に電話をしていただいている。又、プライバシーに配慮し電話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気大切にしている。季節の花を花瓶と一緒に生けたり、ご利用者様の作品、外出時や行事での写真を壁面に飾り出来事を利用者様同士語り合われたり、季節感を感じられる空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、ソファー席などご自由に過ごして頂いている。レクリエーション時や利用者様の状況によってご希望を聞いて椅子等の配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族が相談して家具などご家族のご協力を頂いている。写真や作品を飾ったり、馴染みの物を生かし、安心して過ごして頂けるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間時は人感チャイム、鈴等を活用し、安全対策をしている。現在出来ることを継続できるように支援している。		